

猪名川流域委員会庶務

三菱総合研究所関西研究センター 新田、柴崎様

猪名川部会委員 畚野 剛

一般意見WG提言たたき台作成有難うございます。査読の結果を下記のとおりお送りしますので、お手数ですが、関係ご担当のWG委員にご連絡ください。

記

記述全体についての意見：文章表現が生ぬるいと、河川管理者は「今まで通りで良かった」と思い違いされるかも知れないので、メリハリをつけること。今まで通りでない部分はアンダーラインが必要ではなからうか？

2-3 (2) 河川・環境学習の推進

ここに入れるか、環境の項に入れるか、両方に入れるかはお任せするが次の文言を挿入または追加して下さい。

「学校教育、生涯教育いずれにおいても、川の実地において、日常的かつ主体的な環境学習ができるように、河川管理者は必要な受け皿（ハード）や情報（ソフト）の整備に努力すべきである。そのばあいのフィールドは安全性を考慮する以外は、できるかぎり手付かずの自然状態を維持するよう配慮すること。」

3-3 これまでの委員会の一般意見聴取の取り組みの総括

②(反省点)の文末「…意見表明ができた。」は「意見表明ができたであろう。」ではないでしょうか？

⑤(成果)、(反省点)「…最終提言と同時期に…」のところ、私は「拙速に陥らず、最終提言より若干時期をおくらせてきっちり整理して提出できるよう努力する。」と理解していましたが…

4-1. 1 情報の共有と公開

現行のハザードマップは作成過程および内容共に問題点（不備）がある点を明確に指摘したい。すなわち、「淀川水系について、ハザードマップや…」のうちハザードマップの言葉を独立させて次のようにする。または、より適当な項目の下に移し変える。

「ハザードマップは避難対策のソフトの要として重要である。しかしながら現実の姿として、淀川水系においては河川管理者により浸水想定区域図が最近作成されたが、猪名川流域の上流部は兵庫県の管轄にあるため川西市全域のハザードマップが作成できない状況にあるのは問題である。国と県とがシンクロナイズして作業を進めるべきである。またハザードマップの内容も、もっと、進化させるべきである。たとえば越水にそなえるため、予想される浸水の時間的経過の図示が必要であろう。」

(参考文献：赤銅毅一「洪水ハザードマップ」地図ニュース、2001年9月号、発行地図センター)

同上箇所つづきの部分、模型は一つしか作れないと思います。「見に来なはれ」でなく「見せに回る」努力も必要ではないか？

4-1. 2 委員会活動の反省をふまえた河川管理者への提言

⑤「フィードバック」することに関して

・継続的な関係をつくること：のなかの「流域」の概念は「県管理区域」も含めて同レベルにあつかつていただかないと、たとえば猪名川流域の川西市域の住民は分断されてしまって問題を生じる場合があると思う。

4-2. 2 (1) 住民団体、地域組織との連携

2行目の「公民館的な学習」の語は不相当ではないか？ 他の地域は知らず、川西の公民館は「お稽古事、趣味の会」の貸し部屋業になっている。

「学習拠点は単立・中央集中の大きいものではなく、地域分散型でなるべく多くを配置する。最終的な密度として、コミュニティー（兵庫県特有の制度？）または公民館の密度に準じて配置することが望ましい。」

同、次ページの「河川への知識と企画調整能力を持った人材をNPO等と連携して育成する。」（アンダーライン部分を挿入）

趣意としては、官主導に陥る危険を避けたい。

次の行も「河川管理者と住民との共同を支援するインタープリターをNPO等と連携して育成する。」（アンダーライン部分を挿入）

(2) 河川・環境学習の推進

「学校教育の中で、河川・環境学習（とくに実地）を充実するように努力する。」（アンダーライン部分を挿入）

「NPOなどの協力を得て、望ましい河川環境を理解するための、分かりやすくして正確な図書などの出版を行う。」（アンダーライン部分を挿入）

以上